

学習実態調査と学習到達状況調査との関連についての分析・考察

1 基本的な考え方

学習実態調査と学習到達状況調査との結果から，学習実態と各教科の平均通過率との間に関連があるかどうか統計分析を行った。

分析・考察に当たっては，「教科の関心・意欲・態度」，「生活体験等」，「学びに向かう力」，「自己学習力」，「自己コントロール」の5領域に分けて行うこととし，各項目について，「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した「肯定群」と，「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した「否定群」とに分け，二群の各教科の平均通過率を比較した。

2 分析・考察

以下，基本的な考え方に基づき，各領域別に分析・考察を行う。

(1) 教科の関心・意欲・態度

教科の関心・意欲・態度にかかわる項目の中で，教科の勉強の好き嫌いとは各教科の平均通過率との関連を調べた。

表1 教科の勉強の好き嫌いとは各教科の平均通過率

設問番号	設問	比較	割合 (%)	平均通過率 (%)			
				国語	社会	算数	理科
問9	あなたは，次の教科などの勉強がどれくらい好きですか。【国語】	肯定群	59.6	79.5	67.8	69.4	73.5
		否定群	39.3	75.7	66.1	68.4	73.3
		検定 ¹		**	*	-	-
問9	あなたは，次の教科などの勉強がどれくらい好きですか。【社会】	肯定群	52.5	78.3	69.5	69.2	74.3
		否定群	46.3	77.8	64.7	68.7	72.4
		検定		-	**	-	*
問9	あなたは，次の教科などの勉強がどれくらい好きですか。【算数】	肯定群	60.7	79.0	68.6	72.7	76.3
		否定群	38.0	76.7	64.9	63.2	68.9
		検定		**	**	**	**
問9	あなたは，次の教科などの勉強がどれくらい好きですか。【理科】	肯定群	68.2	78.2	67.3	69.5	75.0
		否定群	30.5	77.8	66.9	68.0	70.0
		検定		-	-	-	**

¹ 検定に際しては，肯定群及び否定群の平均通過率の差を t 検定（母平均の差の検定）により算出した。

**：1%有意を表している。1%有意とは平均通過率の差異が偶然発生する確率が1%未満であること。

*：5%有意を表している。5%有意とは平均通過率の差異が偶然発生する確率が5%未満であること。

表中の網かけ部分は，平均通過率が高い方の群を示している。

表1から，国語が好きな児童は，国語の平均通過率が高く，以下，社会と理科についても同様のことが言える。算数が好きな児童については，どの教科も平均通過率が高いが，このデータのみで相互の関連について判断することは必ずしも適切ではないと考える。

(2) 学びの基礎力

「生活体験等」,「学びに向かう力」,「自己学習力」及び「自己コントロール」をまとめて「学びの基礎力」と考え,該当する49の項目について,それぞれ肯定群と否定群の各教科の平均通過率を比較し,「肯定群>否定群」及び「否定群>肯定群」となった項目数を示したのが表2である。

表2 「学びの基礎力」についての比較

	国語	社会	算数	理科
肯定群>否定群	43	40	43	42
否定群>肯定群	6	9	6	7
合計設問数	49	49	49	49

この表から,学びの基礎力について自己評価の高い児童(肯定群)の方が,どの教科においても平均通過率が高くなる傾向がみられる。教科の学力の向上を図るには,教科内容の指導とともに,学びの基礎力として位置付けた項目の内容について改善を図ることが重要であると考えられる。

表3 4領域別の各教科の平均通過率への影響度

影響度	生活体験等	学びに向かう力	自己学習力	自己コントロール
大きい 4教科すべてに有意差()が認められる項目	8	9	3	3
やや大きい 2~3教科に有意差が認められる項目	3	3	4	2
やや小さい 1教科に有意差が認められる項目	3	1	3	1
ほとんどない どの教科にも有意差が認められない項目	3	0	2	1
設問数	17	13	12	7

有意差：肯定群および否定群の平均通過率の差をt検定により判定し,5%水準で有意なものを有意差が認められるとした。

表3は,学びの基礎力として位置付けた4領域の各項目の内容が教科の平均通過率にどのように影響しているかを調べた結果である。

この結果から,学びの基礎力の4領域の中でも「学びに向かう力」は,他の領域に比べて,教科の通過率に対してより大きく影響していることが分かる。教科の学力の向上のためには,教科内容の指導を充実することはもちろん,「学びに向かう力」を同時に高めていくことが重要なポイントになると考えられる。

また,「学びに向かう力」は,「生活体験等」など他の3領域とも相互に関連し合うと考えられ,各領域のバランスがとれた能力や技能等の育成が望まれる。

(3) 「生活体験等」と各教科の平均通過率との関連

表4 「生活体験等」と各教科の平均通過率

設問 番号	設 問	比較	割合 (%)	平均通過率(%)			
				国語	社会	算数	理科
問1	地域の活動や行事に参加する。	肯定群	68.4	79.7	69.0	70.2	75.0
		否定群	30.6	74.6	62.7	66.3	69.5
		検定		**	**	**	**
問1	新聞のニュース記事を読む。	肯定群	54.2	79.0	68.8	70.6	74.5
		否定群	44.5	76.9	65.1	67.0	72.0
		検定		**	**	**	**
問1	インターネットを使って何かを調べる。	肯定群	49.3	79.3	69.8	71.7	75.5
		否定群	49.3	76.8	64.4	66.4	71.3
		検定		**	**	**	**
問3	自分の考えや気持ちを理解してくれる友だちがいる。	肯定群	85.1	78.7	67.6	69.4	73.8
		否定群	14.3	74.0	63.5	65.9	70.7
		検定		**	**	**	**
問3	家族は自分のことを気にかけてくれていると思う。	肯定群	88.3	78.7	67.5	69.5	73.7
		否定群	10.9	72.7	63.8	64.3	69.9
		検定		**	**	**	**
問3	学校のでできごとなどを自分から家族に話をする。	肯定群	76.7	78.9	68.0	69.9	73.8
		否定群	22.2	75.1	64.2	65.7	71.5
		検定		**	**	**	*
問3	学校へ行くのが楽しい。	肯定群	80.1	79.3	67.6	69.9	74.0
		否定群	19.0	72.8	64.7	64.5	70.1
		検定		**	**	**	**
問3	朝食は毎日食べている。	肯定群	92.2	78.6	67.5	69.7	73.7
		否定群	6.9	70.0	61.4	58.9	68.3
		検定		**	**	**	**

「地域の活動や行事に参加する」という項目にあるように社会体験を豊富にもっている児童の方が、各教科の平均通過率が高く、豊富な体験活動が学習にもよい影響を与えていることが考えられる。

また、「新聞のニュース記事を読む」、「インターネットを使って何かを調べる」の項目のように、情報の豊富なメディアを活用することにより、学習によい影響があることがうかがえる。

今後は、地域の活動や行事などの体験活動に積極的に参加するよう、児童、保護者、関係機関等にさらに働きかけることが大切である。また、高学年の児童には、実際に新聞やインターネットを活用した授業を行うなど、各種のメディアの効果的な活用方法について指導することが大切である。

「自分の考えや気持ちを理解してくれる友だちがいる」、「家族は自分のことを気にかけてくれていると思う」、「学校へ行くのが楽しい」という項目は、友達や家族等との好ましい関係を示すものであり、こうした体験等を通して自己肯定感や自尊感情が培われ、それらが向上心や学習意欲につながると思われる。逆に、こうした体験の乏しい児童は、居場所のなさを感じたり健全な向上意欲をもてなくなったりすることが考えられ、学習からの逃避につながる可能性もある。

これらの項目の肯定群は、それぞれ 85.1 %、88.3 %、80.1 %と高く、全体的には良好な状況にあると思われるが、今後とも様々な場面で児童の自己肯定感や自尊感情を養うことを意識して指導することが大切である。また、これらの項目に否定的な回答をした児童については、学校や家庭での生活の様子などのきめ細かい観察や指導、保護者への働きかけなどに配慮する必要がある。

「朝食は毎日食べている」という基本的な生活習慣に関する項目については、肯定群と否定群との平均通過率の差が他の項目に比べて大きくなっている。朝食の摂取は児童のストレスや心身の状況を計る一つのバロメーターとも言われており、朝食を毎日食べることは、心身の健康の維持や規則正しい生活の実践につながるとともに、学習を支える大切な要素にもなっていると考えられる。

表5に示すように、1か月の読書冊数が3冊以上の群と2冊以下の群について各教科の平均通過率の差をみると、国語と理科については有意差があった。

表5 読書体験と各教科の平均通過率

設問 番号	設 問	比較	平均通過率 (%)			
			国語	社会	算数	理科
問2	あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。(まんがや雑誌, 参考書, 教科書はのぞきます。)	3冊以上の群	79.2	67.5	68.9	74.3
		2冊以下の群	76.6	66.5	69.7	71.9
		検定	**	-	-	**

(4) 「学びに向かう力」と各教科の平均通過率との関連

表6は、「学びに向かう力」の項目のうち、肯定群と否定群について各教科の平均通過率との関連を検定処理した結果、教科の平均通過率に対して影響度が大きいとされる9項目を示したものである。

表6 「学びに向かう力」と各教科の平均通過率

設問番号	設問	比較	割合 (%)	平均通過率 (%)			
				国語	社会	算数	理科
問3	ふだんから「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じる人が多い。	肯定群	64.4	78.7	68.2	69.5	74.6
		否定群	34.7	76.7	64.8	67.8	70.9
		検定		**	**	*	**
問3	本やドラマなどを見て、人の生き方に感動することがある。	肯定群	62.2	79.0	67.8	69.7	74.0
		否定群	36.7	76.3	66.0	67.8	72.4
		検定		**	*	*	*
問4	勉強することがおもしろい、楽しいと思うことがよくある。	肯定群	62.8	79.0	68.1	71.2	74.5
		否定群	36.6	76.3	65.4	65.3	71.3
		検定		**	**	**	**
問4	勉強で得た知識は、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う。	肯定群	88.4	78.9	67.8	70.0	74.2
		否定群	10.3	70.3	61.6	60.1	65.4
		検定		**	**	**	**
問4	友だちに負けないようにがんばって勉強したいと思う。	肯定群	78.7	78.6	67.5	69.8	73.8
		否定群	20.5	76.1	65.6	66.0	71.3
		検定		**	*	**	**
問3	自分はやればできると思う。	肯定群	81.2	78.7	67.6	69.4	73.7
		否定群	17.2	74.4	64.7	66.6	71.6
		検定		**	**	*	*
問3	努力をして最後までやりとげた経験が多い。	肯定群	72.4	78.7	67.9	70.0	74.0
		否定群	26.7	76.2	64.8	66.2	71.4
		検定		**	**	**	**
問4	苦手な教科も得意になるように努力をしている。	肯定群	85.9	78.7	67.5	69.5	73.9
		否定群	12.9	73.9	64.9	65.9	69.9
		検定		**	*	**	**
問4	同じ失敗をくり返さないように気をつけている。	肯定群	85.3	78.9	67.7	69.6	74.1
		否定群	13.8	73.1	63.7	65.8	68.9
		検定		**	**	**	**

「ふだんから『ふしぎだな』『なぜだろう』と感じることが多い」という項目についてみると、肯定群の児童ほど各教科の平均通過率が高い。さまざまな事物と積極的にかかわり、具体的な体験を通して感動したり驚いたりする豊かな感性は、各教科の学習にもよい影響を与えるものと考えられる。

また、「勉強することがおもしろい、楽しいと思うことがよくある」の項目についても肯定群と否定群の有意差がある。

今後、知的好奇心や探求心を一層育てるとともに、児童が「勉強することがおもしろい、楽しい」と思えるように、児童の興味・関心を大切にした学習や「分かった」と実感できるような指導の工夫改善を図る必要がある。

「勉強で得た知識は、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う」という項目について、肯定群の方が各教科の平均通過率が高い。学校での勉強は社会に出て役に立つという意識をもたせる工夫が大切である。

また、「自分はやればできると思う」、「苦手な教科も得意になるように努力している」、「同じ失敗をくり返さないように気をつけている」という項目の肯定群は、それぞれ 81.2 %、85.9 %、85.3 %であり、おおむね前向きに努力している様子が見える。

今後とも、児童のもっている自信ややる気を生かしながら、学習や生活のそれぞれの場面において、具体的な取り組み方法等を助言していくことが大切である。

(5) 「自己学習力」と各教科の平均通過率との関連

表7 「自己学習力」と各教科の平均通過率

設問 番号	設 問	比較	割合 (%)	平均通過率(%)			
				国語	社会	算数	理科
問6	友だちや先生から聞いた勉強のやり方を参考にしている。	肯定群	80.6	78.6	67.6	69.4	73.8
		否定群	18.3	75.5	65.4	66.9	70.9
		検定		**	*	*	**
問5	自分が調べてみたいことについて、活動の計画を立てることができる。	肯定群	51.4	79.0	68.2	70.3	74.6
		否定群	47.9	76.9	65.9	67.6	72.0
		検定		**	**	**	**
問6	宿題はきちんとやっている。	肯定群	88.9	79.1	68.0	70.1	73.8
		否定群	10.4	68.6	58.7	59.8	69.1
		検定		**	**	**	**

「宿題はきちんとやっている」という項目については、どの教科も肯定群の平均通過率が大きく上回っており、「友だちや先生から聞いた勉強のやり方を参考にしている」の項目も、肯定群の平均通過率が高い。

また、それぞれの肯定群は、88.9%、80.6%であり、おおむね良好な状況がみられる。まわりの人から学習の仕方のよいところを取り入れ、工夫しようしたり、宿題をきちんとしたりすることは大切な学習態度であり、今後とも大切にしていきたい。

「自分が調べてみたいことについて、活動の計画を立てることができる」の項目も、肯定群の方が各教科の平均通過率が高い。しかし、この項目の肯定群は51.4%と半数程度にとどまっている。また、問5の「ふだんから計画を立てて勉強している」という項目の肯定群も39.2%と低い(資料 p57 参照)。自分から進んで活動や勉強の計画を立て、計画的にものごとにかかわろうとする態度が大切である。

今後は、学習指導要領が目指す「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」を育成するためにも、児童が課題づくりや学習計画づくりに主体的にかかわるような活動や授業を一層工夫することが大切であると考えます。

(6) 「自己コントロール」と各教科の平均通過率との関連

表8 「自己コントロール」と各教科の平均通過率

設問 番号	設 問	比較	割合 (%)	平均通過率 (%)			
				国 語	社会	算数	理科
問5	分からないことはそのままにせず，分かるまでがんばっている。	肯定群	73.6	78.8	67.7	70.5	74.2
		否定群	25.2	75.8	65.4	64.7	70.6
		検定		**	**	**	**
問3	人の話は最後まで，きちんと聞くようにしている。	肯定群	77.8	79.0	67.8	70.1	74.1
		否定群	21.3	74.7	64.2	65.2	70.4
		検定		**	**	**	**
問3	相手の目を見て，はっきりと話すようにしている。	肯定群	63.9	79.2	67.6	70.6	74.6
		否定群	35.5	75.9	66.1	66.3	70.7
		検定		**	*	**	**

表8では、「分からないことはそのままにせず，分かるまでがんばっている」という項目の肯定群が，どの教科の平均通過率においても，否定群を上回っている。

表9 「授業で分からないことがあるときの対応」と各教科の平均通過率

設 問	回 答 【 】内は各項目を選択した児童の割合	平均通過率 (%)			
		国 語	社会	算数	理科
問7(2) 授業の中で分からないことがあったら，どうすることが多いですか。 (複数回答)	その場で先生にたずねる。 【24.6】	76.8	67.2	71.0	73.8
	授業が終わってから先生にたずねる。 【15.3】	80.4	69.1	72.0	76.4
	友だちにたずねる。 【58.9】	79.3	68.5	69.7	74.2
	家族の人にたずねる。 【61.0】	79.8	69.0	71.1	74.9
	塾や家庭教師の先生にたずねる。 【9.4】	79.2	66.4	70.1	72.2
	自分で調べる。 【27.8】	80.0	69.2	73.2	76.7
	そのままにしておく。 【10.5】	72.2	61.2	64.1	68.1

網掛けは各教科の平均通過率のうち最も高かった項目である。

表9では，分からないことを尋ねたり調べたりすると答えた群が，「そのままにしておく」と答えた群より，どの教科の平均通過率も7ポイント程度高くなっている。解決する方法についてみると，「自分で調べる」と答えた群の平均通過率が，全般的に高い傾向がみられる。

一方，分からないことを「そのままにしておく」児童が10%程度おり，先生に尋ねる児童は約40%である。また，表8の問5の否定群も25.2%であった。

今後は，児童が分からないことを先生に尋ねたり自分で調べたりして学習を進めることができるよう，助言をしていくことが大切である。

(7) その他

学校以外での学習時間と各教科の平均通過率との関連

図1 学校以外での学習時間と各教科の平均通過率(%)

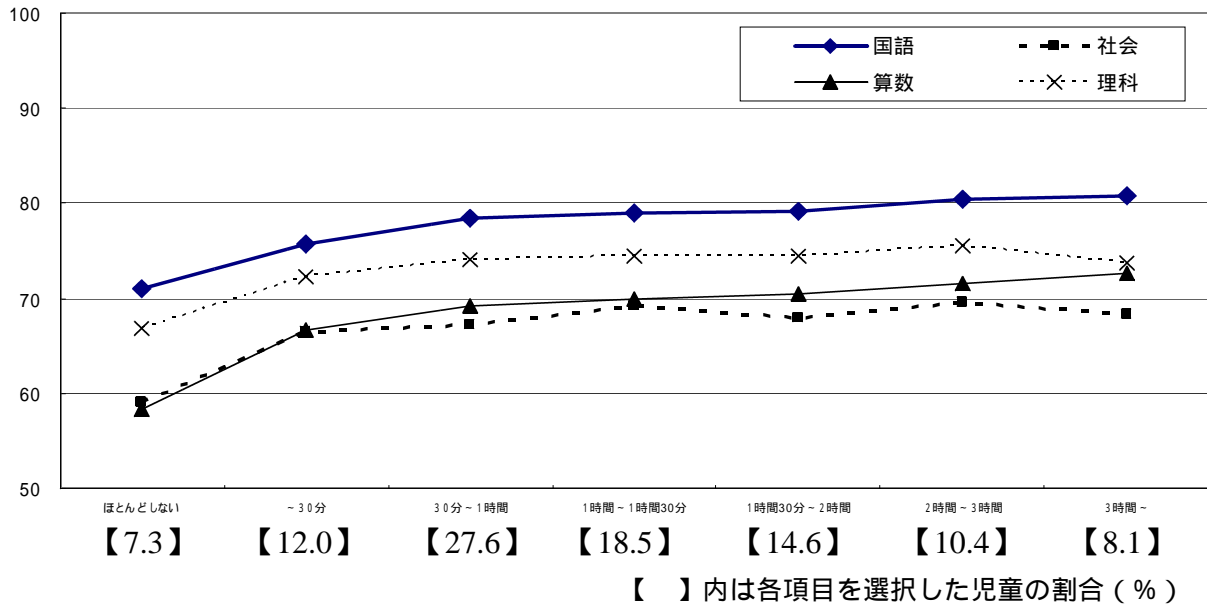


図1から、学習時間の区分において、平均通過率の変化に比較的大きな差がみられるのは、「ほとんどしない」と「~30分」との間である。30分程度の短時間であっても、家庭等で学習をすることが効果的であることがうかがえる。

特に算数については、学習時間の効果が他の教科よりもよく現れていることがうかがえる。

一方、「ほとんどしない」児童が7.3%おり、このような児童には、家庭等での学習習慣が身に付くよう、課題の与え方の工夫など個に応じたきめ細かな指導を、家庭の協力を得て行うことが大切である。

社会的実践力や豊かな心等につながる力と各教科の平均通過率との関連

表 10 社会的実践力や豊かな心等につながる力と各教科の平均通過率

設問 番号	設 問	比較	割合 (%)	平均通過率 (%)			
				国語	社会	算数	理科
問 8	自分の考えや意見を相手に分かりやすく伝えることができる。	肯定群	55.4	78.9	68.1	70.8	74.7
		否定群	43.5	76.9	65.8	66.7	71.6
		検定		**	**	**	**
問 8	人のために役立つことをするように心がけている。	肯定群	70.9	78.9	67.7	69.6	74.1
		否定群	27.2	75.7	65.6	67.5	71.5
		検定		**	*	*	**
問 8	楽しいことを見つけることが得意である。	肯定群	70.8	78.5	67.8	69.5	73.9
		否定群	27.9	77.2	65.5	67.5	71.9
		検定		*	**	*	*
問 8	自分がやらなければならないことは、責任をもってやりぬくことができる。	肯定群	71.9	79.4	68.6	70.5	74.5
		否定群	26.9	74.6	63.0	65.1	70.2
		検定		**	**	**	**
問 8	自分はまわりの人からみとめられていると思う。	肯定群	37.6	79.6	69.4	71.9	76.0
		否定群	60.8	77.3	65.7	67.2	71.9
		検定		**	**	**	**

「自分の考えや意見を相手に分かりやすく伝えることができる」、「自分がやらなければならないことは、責任をもってやりぬくことができる」及び「自分はまわりの人からみとめられていると思う」の3項目について、肯定群と否定群との平均通過率の差の検定結果をみると、他の項目以上に教科の平均通過率との間の関係が深いことがうかがえる。

しかし、「自分の考えや意見を相手に分かりやすく伝えることができる」の項目の肯定群は 55.4 % であり、「自分はまわりの人からみとめられていると思う」の肯定群は 37.6 % と少ない。

今後は、問題解決力の一つである自己表現力や、自己肯定感を育てることが学力の向上を図るために大切であると思われる。

以上、学習実態調査と学習到達状況調査との関連の中で、平均通過率との関連の深い項目を分析するとともに、今後の学級経営や学習指導の進め方について、大切にしたいことや改善の方向性等を提案した。

児童が確かな学力を身に付けるためには、学校だけではなく、家庭や地域と学校とが役割を分担しながら互いに連携することがより一層効果的と思われる。

各学校においては、今回の調査結果から明らかになった課題や学力向上へのヒントを、今後の学習指導の改善に十分生かしていただきたい。